



国立駅南口駅前広場

デザインイメージ説明会

2026(令和8)年

3/29 日

時間：14:30～16:30

場所：国立市役所

3階第1・第2会議室

目次

1. これまでの経過と本日について	1
2. コンセプト	2
3. 設計方針	2
4. 国立駅南口駅前広場基本設計プラン	3
5. 国立駅南口駅前広場基本設計の対応方針及び修正後全体平面図	4
6. 各施設のデザインに共通する考え方	5
7. 国立駅南口駅前広場を構成する施設	5
8. 各施設のデザインイメージ	6
9. 各エリアのデザインイメージ	11

■ 1. これまでの経過と本日について

皆様にご意見をいただいた基本設計案からさらに検討を進め、詳細設計を進めています。
基本設計案でご提示しました「コンセプト」「設計方針」をベースに各施設の詳細デザインの考え方とイメージ案をお示しします。

基本設計

実施設計

▼25/10/06 市民説明会・25/11/16 市民説明会

▼25/12/22 検討状況報告会

▼26/03/29 市民説明会 (本日)

■ **コンセプト** →p2
 みんなでつくる 100年の広場
 みどりのもとに集い、まちを育む

■ **設計方針** →p2

全体方針

景観
のデザイン


交通
のデザイン

広場
のデザイン

環境
のデザイン

共創
のデザイン

■ **国立駅南口駅前広場基本設計プラン** →p3



■ **国立駅南口駅前広場基本設計の対応方針** →p4

1 **トイレ・倉庫について**
 →今回整備では、倉庫のみを設置します。

2 **円形公園について**
 →整備費や維持管理など考慮し、池ではない水環境とします。

3 **地植えの緑について**
 →東側広場：全て地植えの緑を配置します。
 →西側広場：今回整備では地植えの緑+可動式植栽の併用で配置します。

4 **一般車乗降場について**
 →旧国立駅舎前の中央から西側の区間は送り迎えで停車可能な場所を設けています。

5 **ロータリー及び大学通り接続部の1車線化について**
 →現在のプランのまま1車線での計画とします。

■ **国立駅南口駅前広場修正後全体平面図** →p4


1 **トイレ・倉庫について**
 →東側広場に倉庫を設置します。

2 **円形公園について**
 →円形公園については、池ではない水環境とします。

3 **地植えの緑について**
 →地植えの植栽の面積を広げました。

4 **一般車乗降場について**
 →旧国立駅舎前の中央から西側の区間は送り迎えで停車可能な場所を設けています。

5 **ロータリー及び大学通り接続部の1車線化について**
 →現在のプランのまま1車線での計画とします。



■ **各施設のデザインに共通する考え方** →p5

■ **国立駅南口駅前広場を構成する施設** →p5

■ **各施設のデザインイメージ** →p6

- ・ 植栽のデザインイメージ
- ・ ベンチ・サイン等のデザインイメージ (ストリートファニチャー)
- ・ 上家のデザインイメージ
- ・ 照明のデザインイメージ
- ・ 舗装のデザインイメージ

■ **各エリアのデザインイメージ** →p11

- ・ 東側広場・西側広場
- ・ 東側歩道・西側歩道

進捗に合わせて具体的なイメージをご報告

■ 2. コンセプト



大正 15 (1926) 年当時の国立大学町の写真
写真：郷土文化館所蔵

みんなでつくる 100 年の広場 みどりのもとに集い、まちを育む



約 100 年前、国立駅と共に大学町まちが生まれました。三角屋根の駅舎、水禽舎のある円形公園が特徴的な駅前広場は人々が集まる場所でした。これらは時と共に車中心の空間に変わっていきました。

現在、旧国立駅舎の再築を機に、国立駅前を人中心の空間とする機運が高まっています。そこで、駅前広場から大学通りにつながるみどりと人の空間をつくり、そこに集まる動植物も含め、それぞれが居心地よく過ごせる駅前広場をコンセプトとしました。

そして、そこに人々が関わり、様々な活動を通して考え学ぶ場へと成長する国立駅南口駅前広場めざを目指します。

■ 3. 設計方針

全体 方針

- 1 みどりや人の空間を増やし、憩いやにぎわいが生まれ、人や生き物がゆっくりと過ごせる広場とします。
- 2 大学町として成長してきたまちの歴史や文化を継承ついでします。
- 3 人の動線、緑、生き物のネットワークやにぎわいが周囲につながり、まちの回遊性を高める広場とします。
- 4 時間帯や季節による多様な使われ方、イベントや災害時利用などにも柔軟に対応できる広場とします。
- 5 ソーシャルインクルージョンの考え方に基づき、様々な人に使いやすいユニバーサルデザインの広場とします。

景観 のデザイン

- 1 大学通りから旧国立駅舎への眺望を尊重します。
- 2 大学通り、富士見通り、旭通りの3つの軸を活かします。
- 3 整備当初から残る円形公園の形状などを継承したデザインとします。

交通 のデザイン

- 1 交通機能を最適化し、コンパクトに配置します。
- 2 歩行者・自転車・車両利用者も使いやすく、安全・安心なデザインとします。
- 3 耐久性が高く、長く使用できる素材を用います。
- 4 一時的に車両通行路を切り替えることにより、大イベント時などに広い歩行空間を確保できるデザインとします。

広場 のデザイン

- 1 沿道と一体となって、憩いやにぎわいが生まれるデザインとします。
- 2 広場全体で憩いやにぎわいが感じられるよう、各空間同士が見通せるデザインとします。
- 3 夜間でも安全・安心な場所となるよう、適切に照明を配置します。

環境 のデザイン

- 1 武蔵野の気候・風土にあった植栽を増やし、大学通りのみどりにつながるデザインとします。
- 2 人々が木陰や四季の緑を楽しめるよう、駅前広場全体で効果的に緑を配置します。
- 3 既存のサクラをできる限り長生きさせつつ、将来的なサクラの更新も考慮したデザインとします。
- 4 雨水浸透を促す機能をもつグリーンインフラを活用し、災害対策と環境改善の両立を目指します。
- 5 維持管理やコストに配慮しつつ、素材のリサイクルや CO2 削減など SDGs に資するデザインとします。

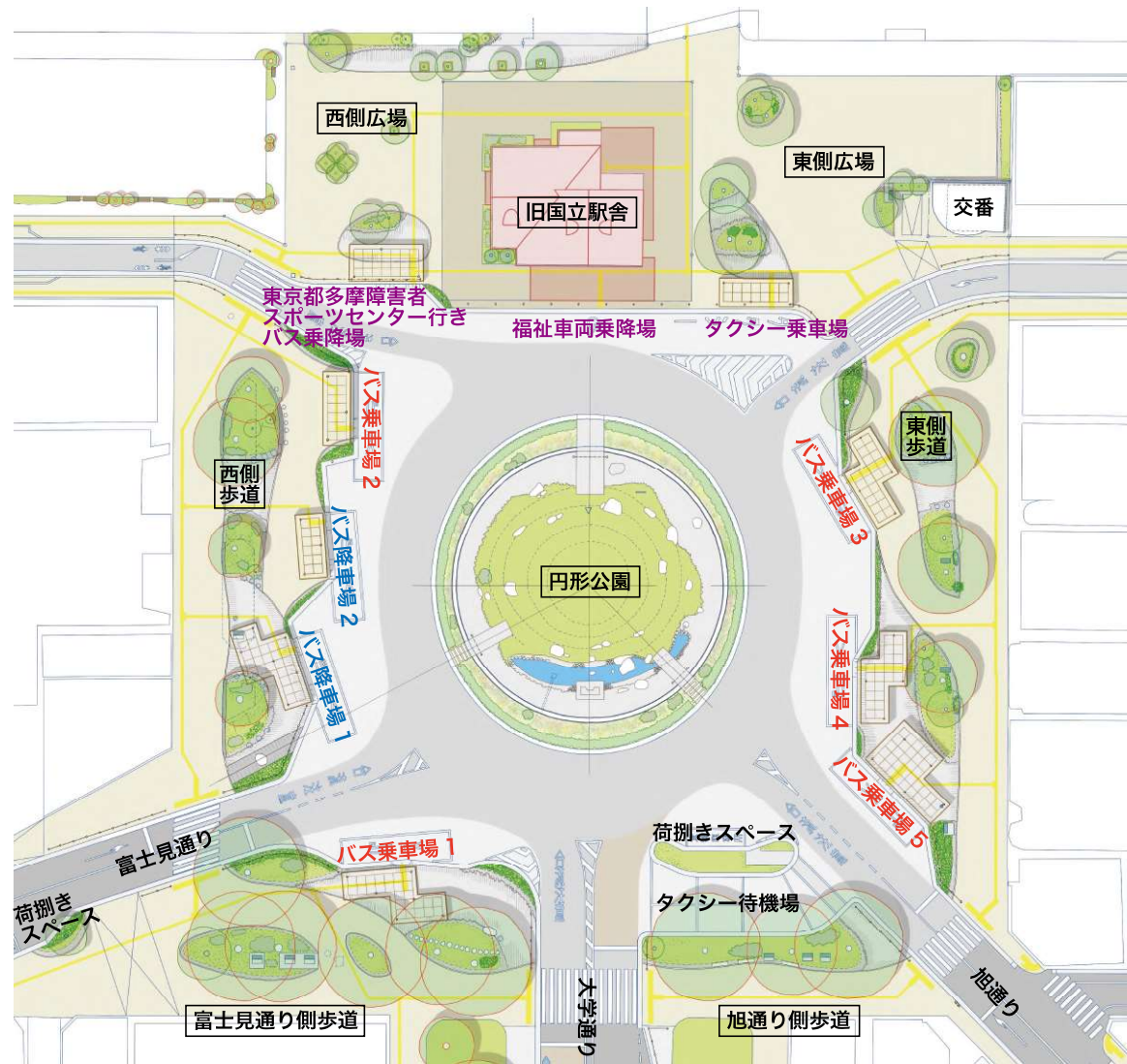
共創 のデザイン

- 1 地域の人々や来訪者がそれぞれに合った様々な形で広場に関わることができ、愛着を持てるデザインとします。
- 2 人々が使いやすい広場とするため、多様な人々と一緒に広場のデザインを考えます。
- 3 寄せられた意見やワークショップの成果を踏まえたデザインとします。
- 4 社会実験などで使い方を試しながら、様々な活動を通して考え・学ぶ場へと成長する広場めざを目指します。

各施設のデザインに関連するキーワード

■ 4. 国立駅南口駅前広場基本設計プラン

(25/10/06 開催の市民説明会でご説明した修正前のプランです)



※大学通りの1車線化との接続部分は道路管理者及び交通管理者と協議中です。

■ 5. 国立駅南口駅前広場基本設計の対応方針及び修正後全体平面図

3 地植えの緑について

- 東側広場：全て地植えの緑を配置します。
- 西側広場：今回整備では地植えの緑＋可動式植栽の併用で配置します。
- ・西側広場については、歩行者動線に配慮し、地植えの樹木を配置しつつ、緑量感を感じられるよう一部可動式植栽を配置します。
- ・整備後の利用状況など見ながら可動式植栽は将来的に地植えへの変更を検討していきます。
- ・地植えを増やしてほしいとの要望からJR 駅舎側に中低木を中心とした地植え植栽の検討や一部の地植え植栽地を拡大しました。

4 一般車乗降場について

- 旧国立駅舎前の中央から西側の区間は送り迎えで停車可能な場所を設けています。
- ・福祉車両が優先的に使えるようにおもいやりを持ってご利用ください。
- ・停車扱いとなる必要最小限の乗降であれば一般車両についても運用できます。こちらについて、わかりやすい周知をしていきます。

5 ローター及び大学通り接続部の1車線化について

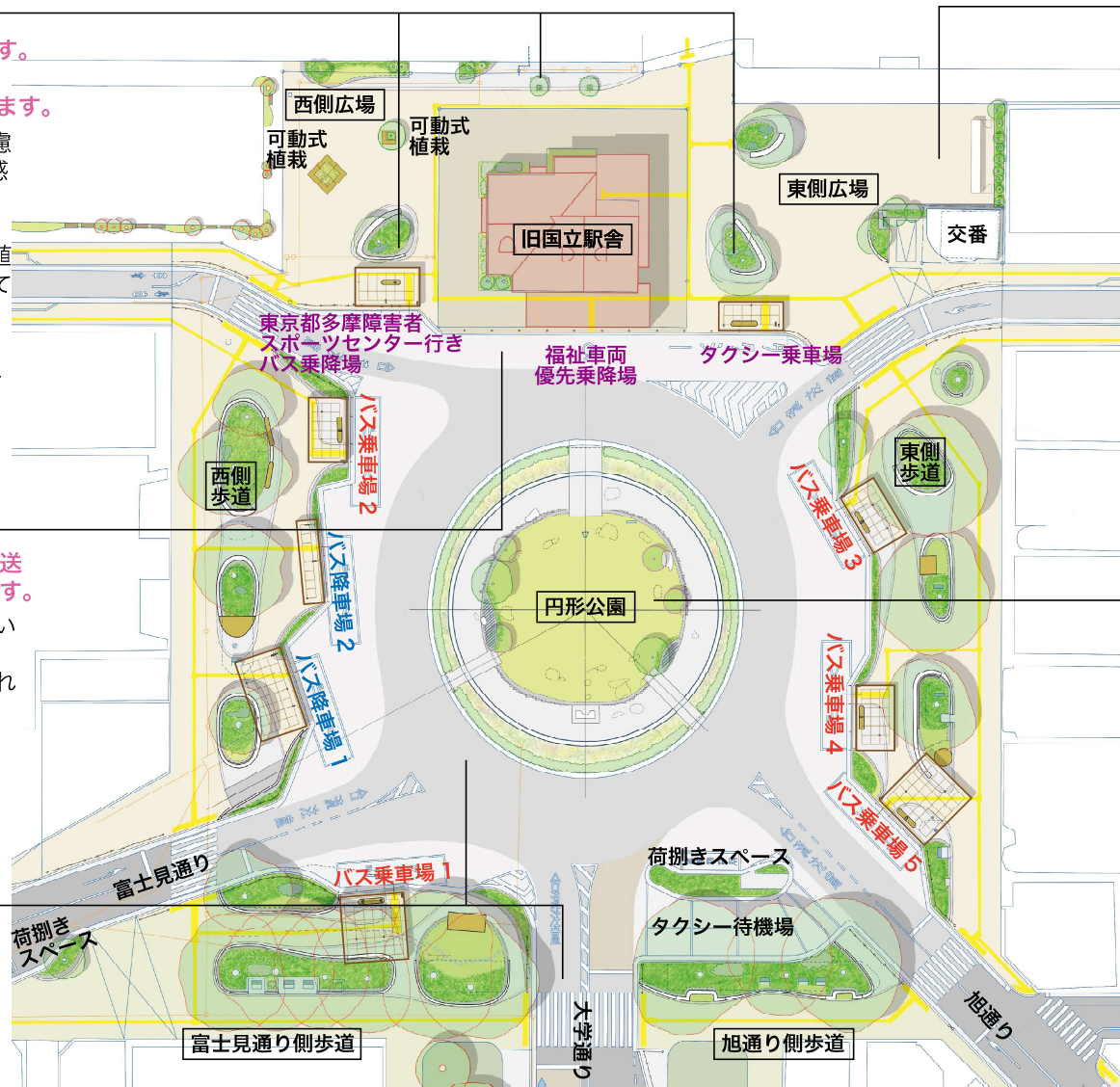
- 現在のプランのまま1車線での計画とします。
- ・複数車線で輻輳が生じているロータリーを一車線にし、安全で分かりやすい車線運用となります。
- ※令和6年11月に実施した交通社会実験によって大きな問題は生じないことを確認しております。

1 トイレ棟・倉庫棟について

- 今回整備では、倉庫のみを設置します。
- ・倉庫の構造・規模については引き続き検討していきます。
- ・倉庫の広場に面している壁を活用し、広場と一緒に利用できる場所とします。
- ・周辺のトイレの設置状況を調査し「トイレマップ」での周知を行います。
- ・駅前広場のトイレ設置については、利活用を見ながら将来的に検討するとともに、周辺の公共施設の活用などによるトイレ機能の確保なども検討します。

2 円形公園について

- 整備費や維持管理などを考慮し、池ではない水環境とします。
- ・環境やイベント開催時の安全性に配慮し、アメニワ構造のくぼみなど降雨時に一時的に雨水が溜まる環境を検討していきます。
- ※アメニワは雨水を一時的に貯めて地下にゆっくり浸透させる仕組みでグリーンインフラのひとつです。

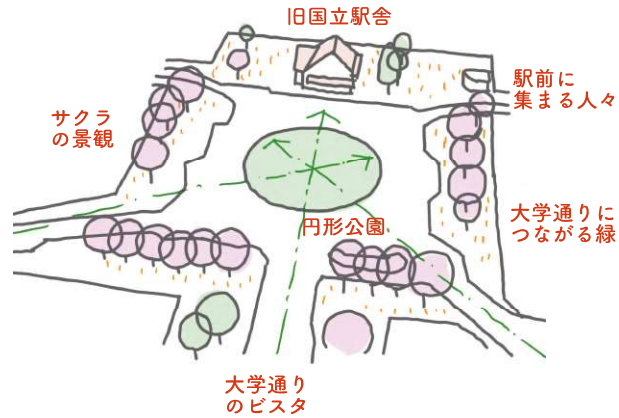


※今後、関係者協議を進める中で、変更する場合があります。
 ※大学通りの1車線化との接続部分は道路管理者及び交通管理者と協議中です。

■ 6. 各施設のデザインに共通する考え方

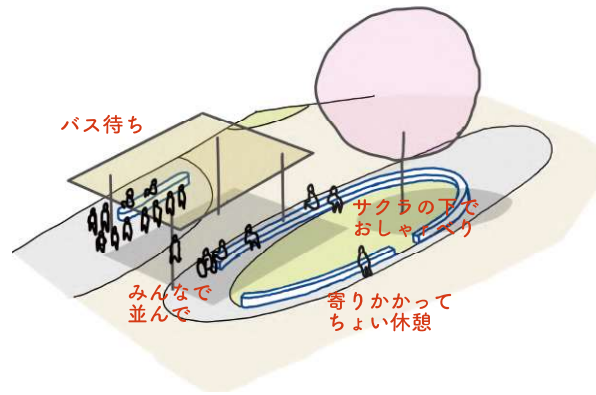
1 シンプルで、機能的に →各施設の形

- ・主役を引き立てる
- ・各施設の形は機能に即してシンプルに



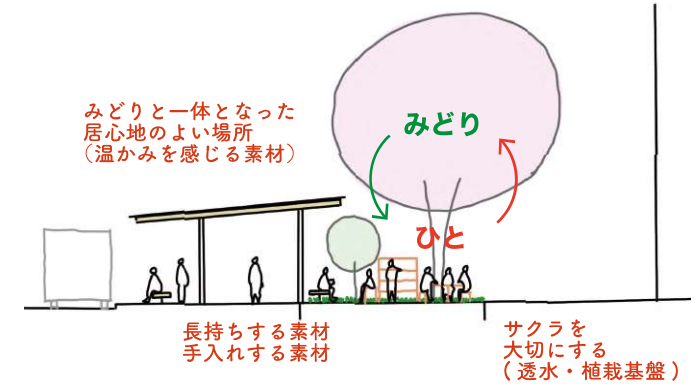
2 多様な場所が、一つの空間に →各施設の組合せ

- ・シンプルな形の施設を組合せて多様な空間に
- ・みんなで共有（一つ屋根の下、一つのベンチ）



3 循環しながら、持続可能に →各施設の素材

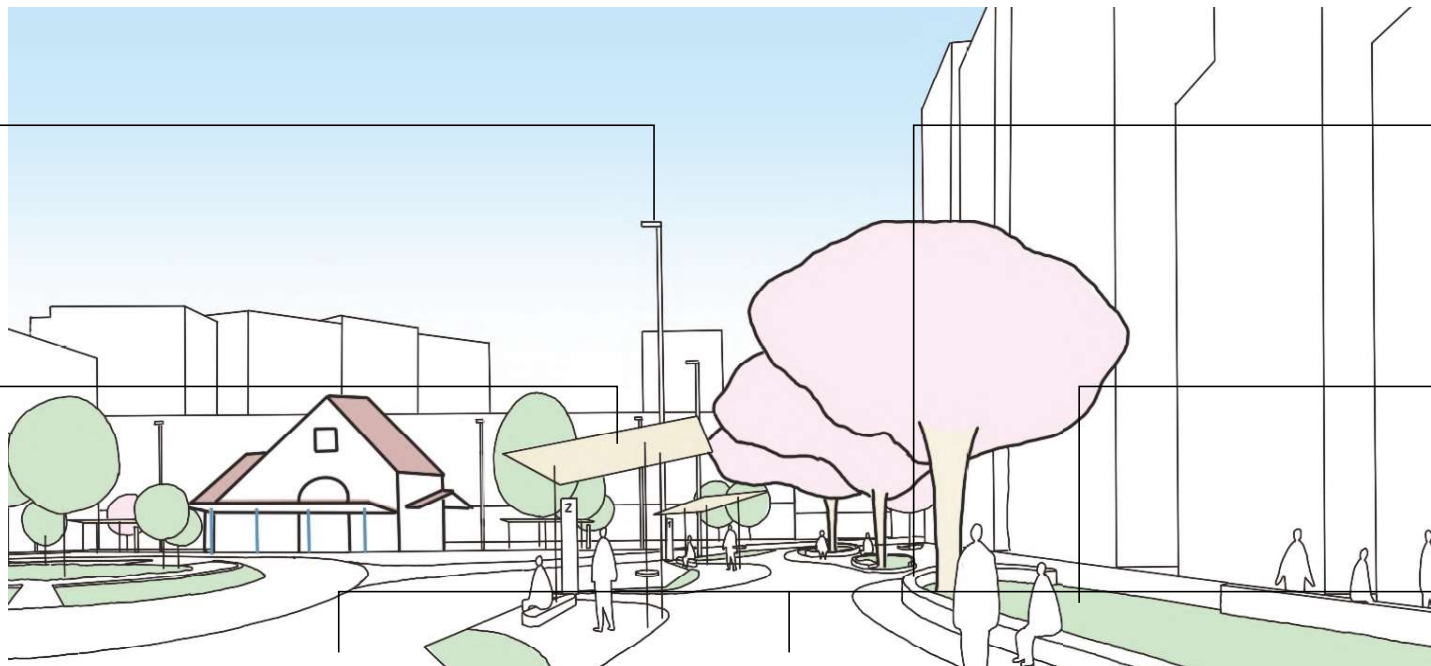
- ・美しく、長持ちする
- ・みどりと人の良い循環（互いに支え合う）



■ 7. 国立駅南口駅前広場を構成する施設

照明
のデザインイメージ
→p9

上家
のデザインイメージ
→p8



ベンチ・サイン等
のデザインイメージ
(ストリートファニチャー)
→p7

植栽
のデザインイメージ
→p6

舗装
のデザインイメージ
→p10

■ 8. 各施設のデザインイメージ

植栽

のデザインイメージ

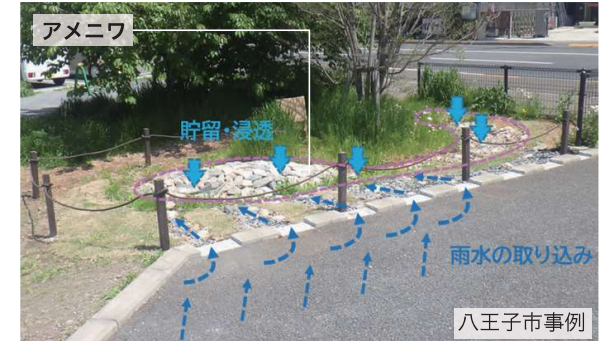
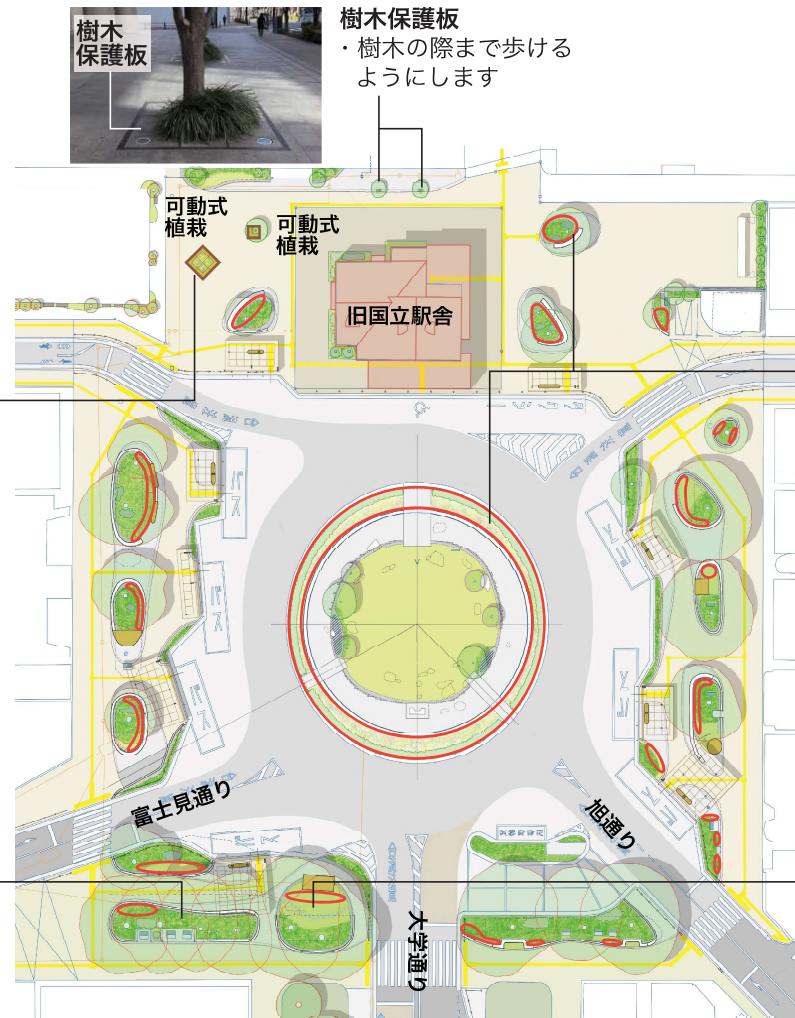
- ・既存のサクラをできるだけ長生きさせるようにします。具体的にはサクラの植栽帯の範囲を広げ、生育環境を改善します。また人が立ち入れるエリアと立ち入りを抑制するエリアを分け、サクラの根を守ります。
- ・新しく植える樹木については、効果的に緑を感じられ、日陰を生み出す植栽配置とします。
- ・樹種については、武蔵野の風土にあったものを選定し、高木、中木、低木、地被類をバランスよく配置します。
- ・部分的に雨水が地下に貯留浸透できるような植栽帯（アメニワ）を設けます。
- ・効果的に緑が感じられるよう、一部に可動式植栽を設けます。植栽の周りに人の居場所ができるものとしします。



- 可動式植栽** □
- ・効果的に緑を感じられるようにします
 - ・可動式植栽の周りにベンチを設けます



- 入れない植栽** ■
- ・低木などを植えて、人の立ち入りを抑制し、樹木の根を守ります



- アメニワ** □
- ・貯留浸透機能のある植栽地を設けます
 - ・水に強い植栽を選びます



- 入れる植栽** ■
- ・植栽地を広げた箇所には、部分的に人が立ち入ることができるように地被類を植えます

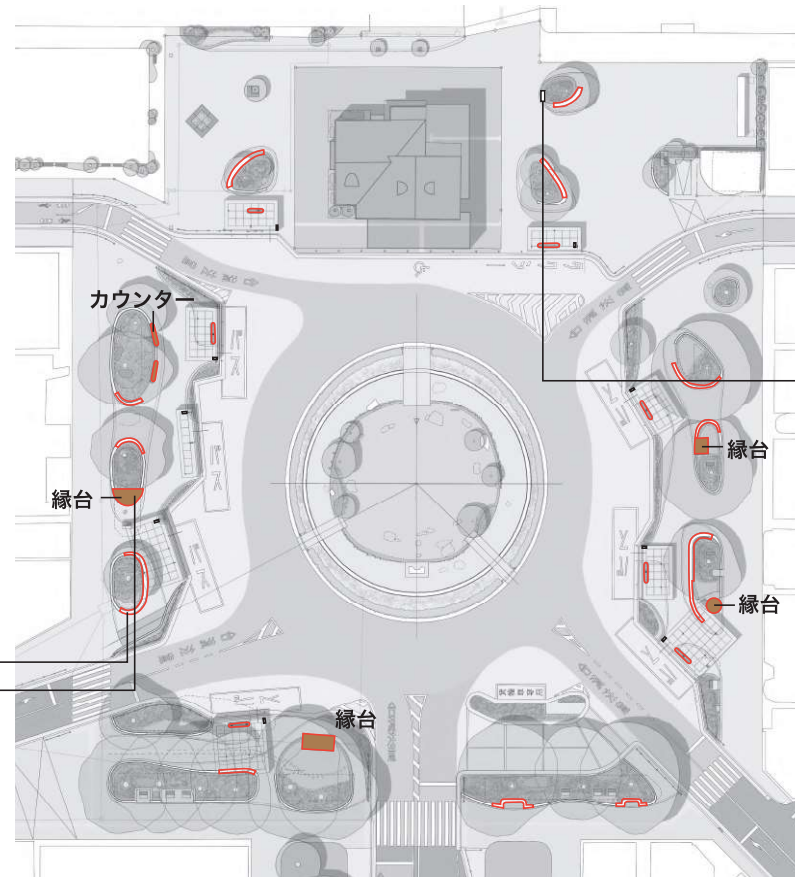


※今後、関係者協議を進める中で、変更する場合があります。
 ※大学通りの1車線化との接続部分は道路管理者及び交通管理者と協議中です。

ベンチ・サイン等

のデザインイメージ

- ・個々の施設は形や素材の種類を絞り、シンプルなデザインとします。シンプルな形の施設の組み合わせや複数の機能を兼ねることによって多様な空間が生まれるようにします。
- ・ユニバーサルデザインの考えに基づいたデザインとします。具体的には、視覚にしょうがいのある方が使いやすい点字誘導ブロック、車椅子やベビーカー利用者が同伴者と並んで座れるベンチを配置します。
- ・一つの施設を、多くの人が共有できるデザインとします。具体的には、多くの人が同時に座れるベンチなどを配置します。
- ・長持ちする素材を適材適所に使い、使用する場所に応じて耐久性の高い素材や温かみを感じられる木材を用います。
- ・個々のベンチ・サイン等の色彩は、旧国立駅舎や緑を引き立てる色とします。具体的な色は「国立市景観づくりガイドライン」に準拠します。



- サイン
- ・耐久性の高い素材のサインとします
- ・色は旧国立駅舎や周囲の緑を引き立てる色とします

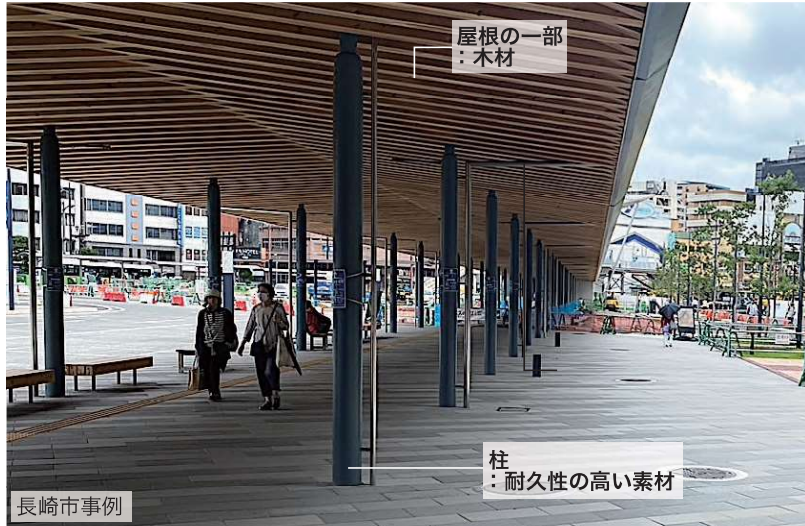


※今後、関係者協議を進める中で、変更する場合があります。
 ※大学通りの1車線化との接続部分は道路管理者及び交通管理者と協議中です。

上家

のデザインイメージ

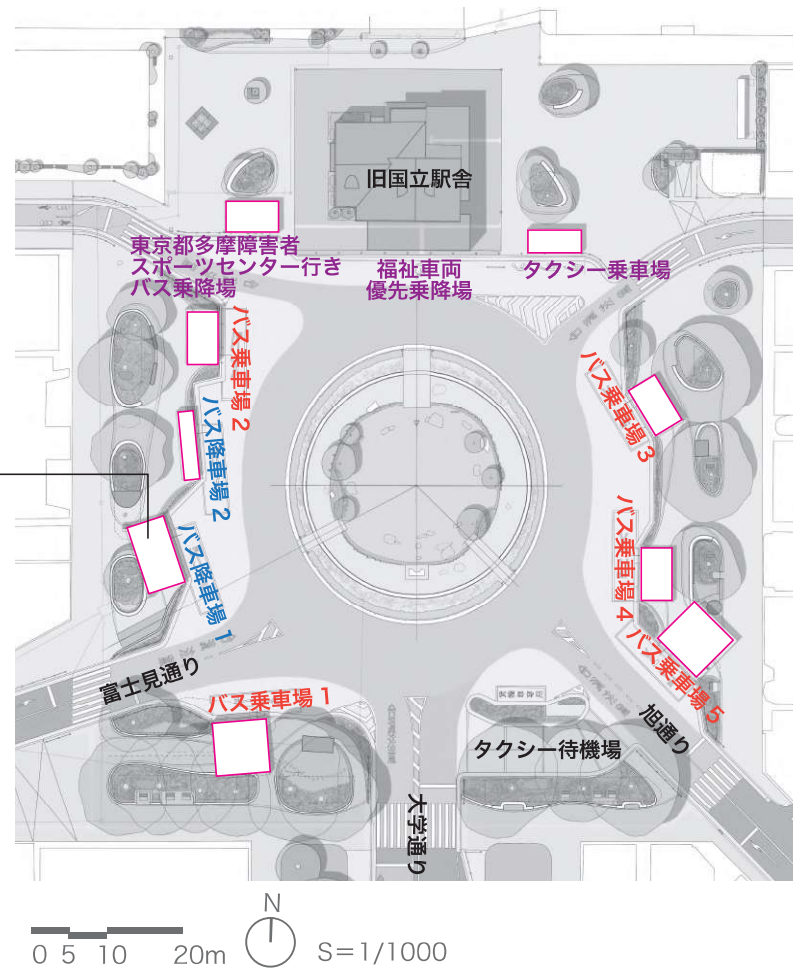
- ・公共交通の乗降場の前に配置し、**シンプル**な形状とします。
- ・旧国立駅舎の三角屋根を引き立てるために、**水平**を基調とした立面形とします。
- ・大学通りとつながるみどりと人の空間を作るために、**温かみ**を感じられる木材を利用します。木材を使うことでCO2削減にもつながります。
- ・長持ちする素材を**適材適所**に用います。具体的には雨がかかる屋根上面や柱には**耐久性の高い素材**を用い、雨がかわらない**屋根の内側**には**木材**を用います。
- ・上家の柱や屋根材の色彩は、**旧国立駅舎や緑**を引き立てる色とします。具体的な色は「国立市景観づくりガイドライン」に準拠します。



上家 □

- ・バスやタクシーなどの乗降場の前に設置します
- ・雨がかわかる屋根上面や柱は耐久性の高い素材を用います
- ・雨がかわからない屋根の内側には温かみを感じる木材を用います

※構造や素材については、今後関係者協議を進める中で、変更する場合があります。



※今後、関係者協議を進める中で、変更する場合があります。
 ※大学通りの1車線化との接続部分は道路管理者及び交通管理者と協議中です。

照明

のデザインイメージ

- ・旧国立駅舎のライトアップを引き立てるような照明計画とします。具体的には、新設照明はシンプルな形状のものとし、必要な場所に必要な明るさを確保します。既存の商店会街路灯は可能な限り再利用します。
- ・上家の下はほんのりと明るくし、温かみを感じられるようにするとともに、時刻表などを確認するのに必要な明るさを確保します。
- ・街路空間を美しく見せる演出照明（フットライトなど）も配置します。
- ・明かりの色を電球色に統一し、駅前広場全体で温かみを感じられる夜間景観とします。
- ・新しく設置する街路灯本体の色は、主役である旧国立駅舎や植栽の緑を引き立てる色とします。具体的な色は「国立市景観づくりガイドライン」に準拠し、サインや柵の色などと合わせます。



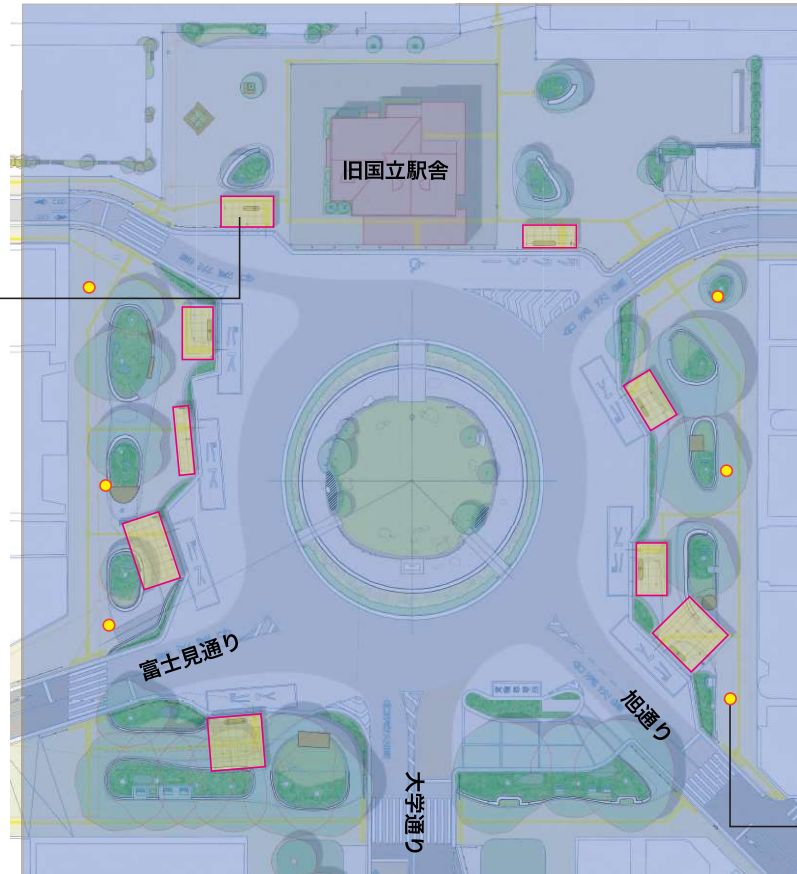
富山市事例

- 上家の照明
- ・時刻表などが見えるよう、上家の下はほんのりと明るくし、温かみを感じる空間とします



富山市事例

- フットライト (設置箇所検討中)
- ・ベンチ下の間接照明により夜間景観を演出します



車道灯 (設置箇所検討中)

- ・シンプルな形状の道路照明を用品
- ・明かりの色は温かみを感じる色とします



● 既設商店街路灯

- ・既設の商店会街路灯を活用します

※今後、関係者協議を進める中で、変更する場合があります。
 ※大学通りの1車線化との接続部分は道路管理者及び交通管理者と協議中です。

舗装

のデザインイメージ

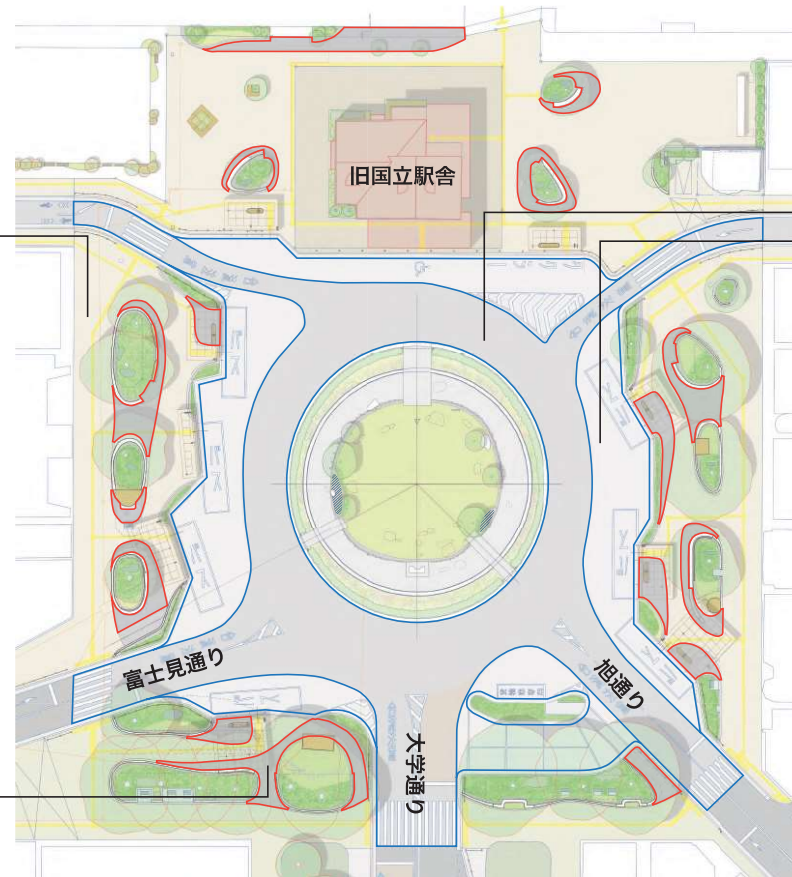
- ・機能に合わせて素材を使い分け、視覚的に区分します。具体的には、車道では走行車線と停車帯を、歩道では動線部分と滞留部分を視覚的に区分します。
- ・舗装の色彩については、広場全体が明るく温かみを感じるような色の素材を用います。具体的な色については「国上市景観づくりガイドライン」に準拠します。
- ・車道については、耐久性が高い素材を用います。歩道については、既存樹木の生育環境に貢献する透水性を持った素材を用います。
- ・シンプルなデザインとなるよう、舗装材の種類を絞ります。一方で、その組み合わせ方によって、多様な空間を生むようにします。



- 歩道（動線部分）：透水性ブロック舗装
- ・耐久性が高く維持管理がしやすい舗装とします
 - ・色は明るい舗装材を想定します



- 歩道（滞留部分）：透水性ブロック舗装（小サイズ）
- ・小サイズのブロックを用いて目地を増やすことで、透水量を増やします
 - ・色は明るい舗装材を想定します
 - ・歩道の舗装は歩きやすさなど、ユニバーサルデザインに配慮した素材とします



- 車線 半たわみ性舗装
- 停車帯
- 車道（車線、停車帯）：半たわみ性舗装
- ・強度が高く、耐久性が高い舗装とします
 - ・広場全体が明るくなるよう、ライトグレー系の色を想定します
 - ・色を調整して、走行車線と停車帯を視覚的に区分します

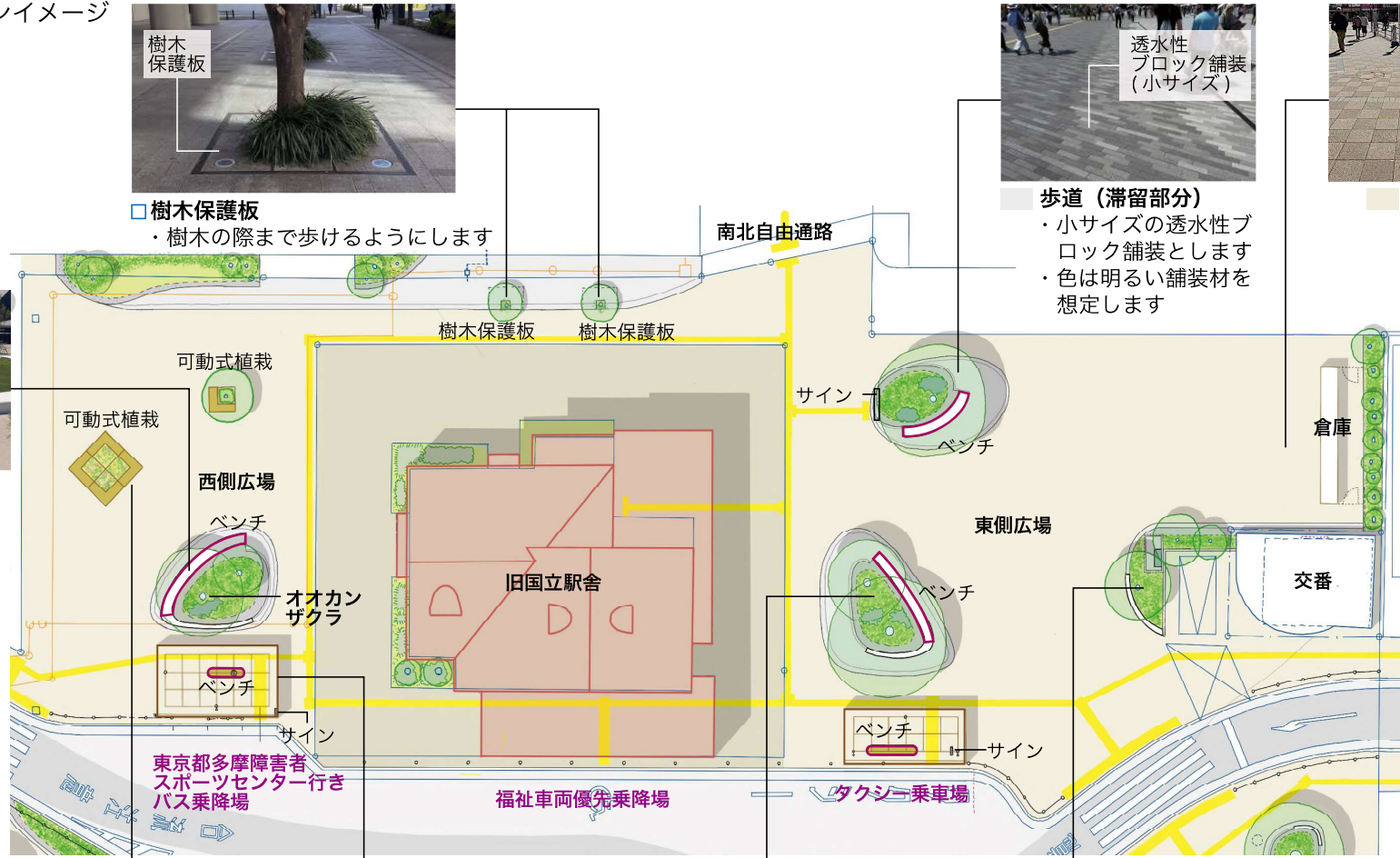
※今後、関係者協議を進める中で、変更する場合があります。
 ※大学通りの1車線化との接続部分は道路管理者及び交通管理者と協議中です。

■ 9. 各エリアのデザインイメージ

東側広場
西側広場の
デザインイメージ



- ベンチ**
- ・土留めや縁石などと兼用します
 - ・耐久性が高く、肌触りが良い素材を用います



- 樹木保護板**
- ・樹木の際まで歩けるようにします



- 歩道 (滞留部分)**
- ・小サイズの透水性ブロック舗装とします
 - ・色は明るい舗装材を想定します



- 歩道 (動線部分)**
- ・透水性ブロック舗装
 - ・色は明るい舗装材を想定します



可動式植栽



- 上家**
- ・雨が降る屋根上面や柱には耐久性の高い素材を、雨が降らない屋根の内側には温かみを感じる木材を用います



- 入れる植栽**
- ・広げた植栽地には部分的に人が入れるようにします



- 入れない植栽**
- ・低木などにより、人の立ち入りを抑制し、樹木の根を守ります



- 車道灯 (設置箇所検討中)**
- ・シンプルな形状の照明とします



※今後、関係者協議を進める中で、変更する場合があります。

東側歩道
西側歩道
のデザインイメージ



- ベンチ**
- ・土留めや縁石などと兼用します
 - ・耐久性が高く、肌触りが良い素材を
用います



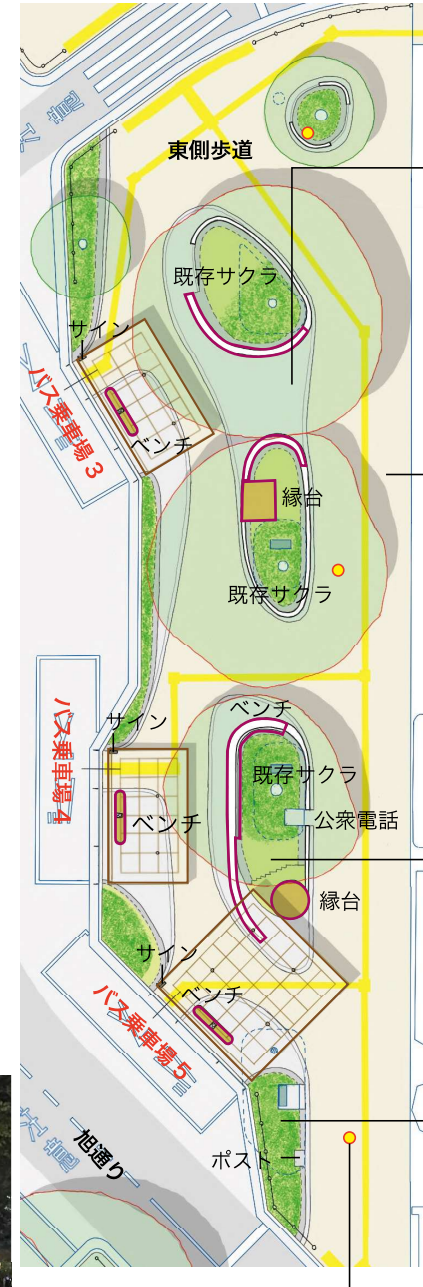
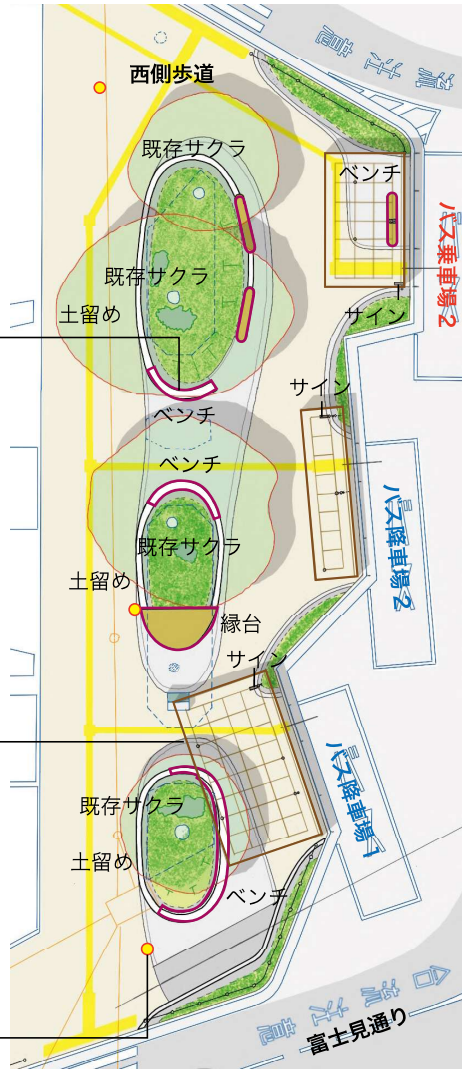
- 上家**
- ・雨がかかる屋根上面や柱には耐久性の
高い素材を、雨がかからない屋根の内
側には温かみを感じる木材を
用います



- 車道灯（設置箇所検討中）**
- ・シンプル形状の照明
とします



- 既設商店会街路灯**
- ・既設の商店会街路灯
を活用します



- 歩道滞留空間**
- ・小サイズの透水性ブロック舗装とします
 - ・色は明るい舗装材を想定します



- 歩道動線空間**
- ・透水性ブロック舗装
 - ・色は明るい舗装材を想定します



- 入れる植栽**
- ・広げた植栽地には部分的に
人が入れるようにします



- 入れない植栽**
- ・低木などにより、人の立ち入りを
抑制し、樹木の根を守ります

※今後、関係者協議を進める中で、変更する場合があります。

富士見通り側歩道 旭通り側歩道 のデザインイメージ



入れない植栽
・低木などにより、人の立ち入りを抑制し、樹木の根を守ります



歩道滞留空間
・小サイズの透水性ブロック舗装とします
・色は明るい舗装材を想定します



歩道動線空間
・透水性ブロック舗装
・色は明るい舗装材を想定します



上家
・雨が掛かる屋根上面や柱には耐久性の高い素材を、雨が掛からない屋根の内側には温かみを感じる木材を uses



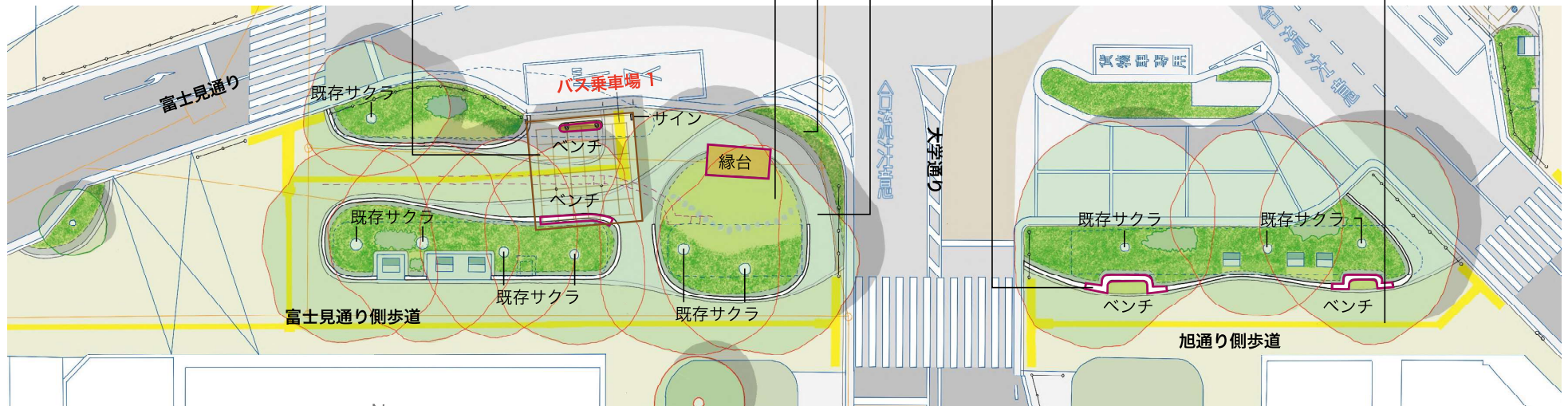
入れる植栽
・広げた植栽地には部分的に人が入れるようにします



ベンチ
・土留めや縁石などと兼用します
・耐久性が高く、肌触りが良い素材を uses



車道灯 (設置箇所検討中)
・シンプルな形状の照明とします



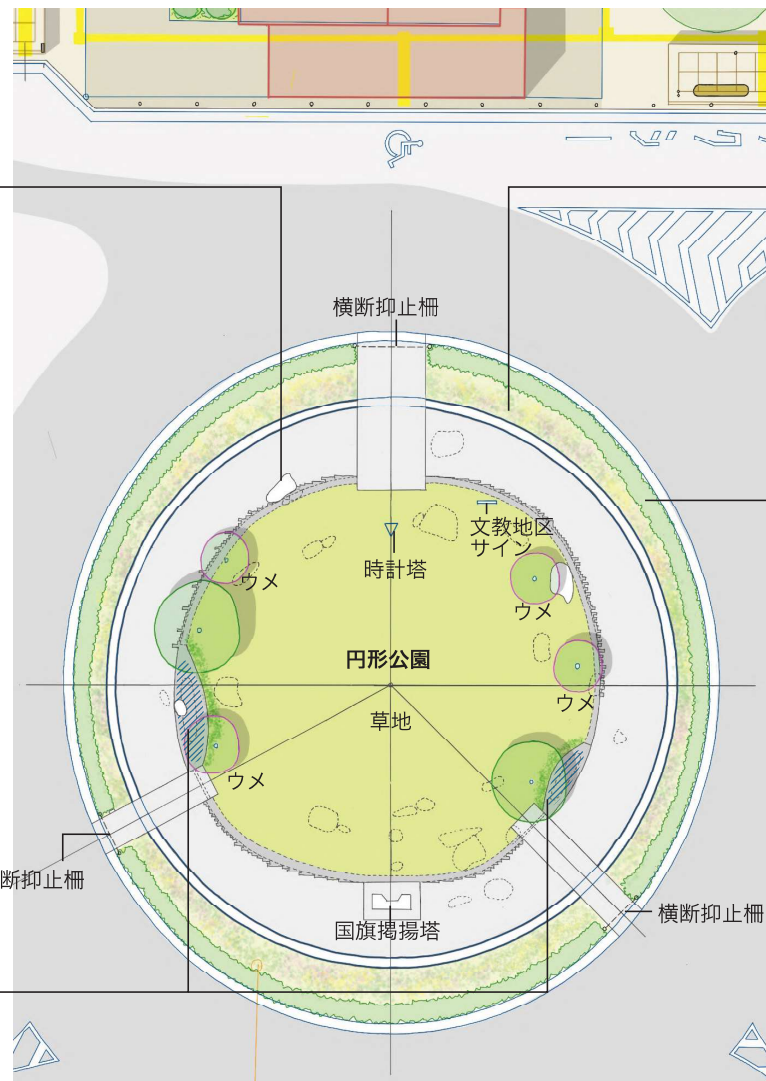
※今後、関係者協議を進める中で、変更する場合があります。
※大学通りの1車線化との接続部分は道路管理者及び交通管理者と協議中です。

円形公園

のデザインイメージ

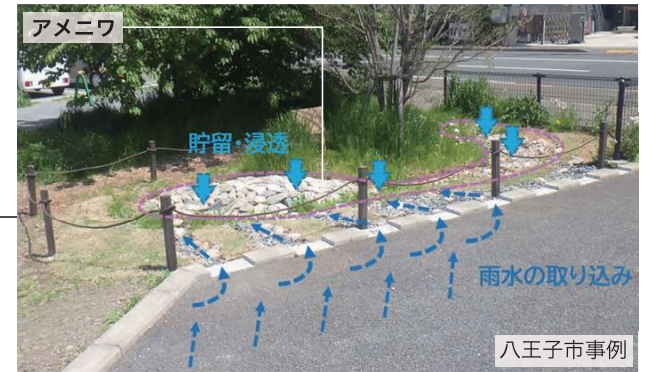


景石
 ・円形公園内にある景石は残しますが間引くことや移設することも検討します。



水環境

・降雨時に一時的に雨水が溜まる環境を検討します。

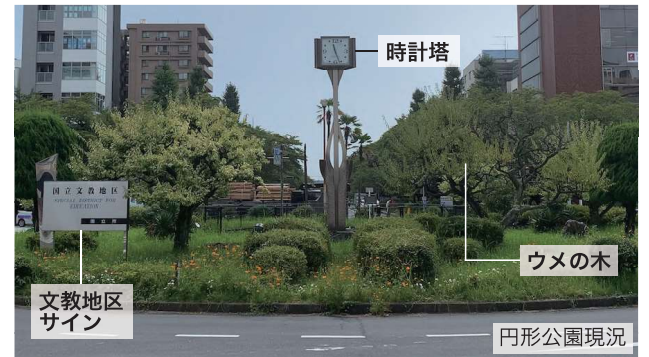


アメニワ

・貯留透水機能のある植栽地を設けます
 ・水に強い植栽を選びます

外周部

・横断防止効果のある背の高い低木や地被類を植えます



ウメの木

・円形公園のウメの木は移植も検討します

時計塔・文教地区サイン・国旗掲揚塔

・時計塔・文教地区サイン・国旗掲揚塔は円形公園の中に残します



※今後、関係者協議を進める中で、変更する場合があります。